

チェルノブイリツアー(1日観光)

このツアーでは、現在のチェルノブイリ原子力発電所の姿や隣接地域の様子を実際に見ることができると共に、事故の影響によって失われた町や村の貴重な歴史、放射能に対する専門的な知識を学ぶことができます。

チェルノブイリの悲劇は1986年4月26日の深夜に始まり、現在もチェルノブイリ原子力発電所の事故の影響により汚染レベルの高い状態が続いているため、多くの問題が残されています。

事故の影響により、2つの町と多くの村の住民たちはソビエト連邦政府によって強制移住させられ、新たな住まいや土地を探さなければならなくなり、大きな問題となりました。

今回のツアーで原子力史上、最も大きな悲劇の一つに実際に触れることで、これから私たちの未来に必要なものが見えてくるかもしれません。



チェルノブイリ 1 日ツアー(見学予定場所)

※天候や当日の状況によりツアー内容を変更または中止する場合があります。

キエフ出発 AM 8:00

1、ディチャトウク検問所

(立ち入り禁止区域、半径 30 km² 圏内区域)

立ち入り禁止区域は、事故が起きたチェルノブイリ原子力発電所から、最もレベルの高い放射能汚染地域 2,600 km² 圏内になっています。現在、世界でも放射能に汚染された地域として、科学的な面だけではなく、世界中から興味・関心を持った沢山の観光客が訪れています。



2、ザリシャ村

チェルノブイリの町から 600m に位置し、チェルノブイリ立ち入り禁止区域ツアーの中で訪れる最初の見学場所です。ザリシャ村は、この地域に数多くある村の中でも、特に大きな村でした。当時の人口は 3,000 人、病院、商店、集合農場などがありました。1986 年 5 月 4 日、原子力発電所の事故の影響により村人たちは強制避難させられましたが、「サマショーリィ」(ウクライナ語 Самосели) と呼ばれる立ち入り禁止区域とされた土地に、自らの意志で残り暮らしている人々が 2005 年まで 5 人、住んでいました。



3、チェルノブイリの町

この町は、チェルノブイリ立ち入り禁止区域の中心地です。その歴史は古く、1193年キエフ大公の狩猟城館として使用され、中心的な役割を持つ都市でした。チェルノブイリ原発事故後、市民は強制避難したため、現在は町としての機能はしておらず、チェルノブイリ立ち入り禁止区域を管理する関係者オフィスと訪問関係者のための宿泊施設があるだけとなっています。施設に関わる職員は外部被ばくを防ぐため、滞在時間や勤務シフトが規則で決まっており、町には制限された時間滞在しています。



4、チェルノブイリ原子力発電所

ソビエト連邦時代は「V・I・レーニン記念チェルノブイリ原子力発電所」と呼ばれていましたが、1991年のソ連崩壊後、名称が変わり「チェルノブイリ原子力発電所」と改称されました。全部で4つの原子炉があり、それぞれの原子炉では1,000メガワットの電力を生産し、国内電力の10パーセントを支えていました。チェルノブイリ原子力発電所の事故は4号炉で発生し、世界の原子力史上最大の事故と言われています。



現在、1～3号機は運転を停止していますが、資金難などを背景に解体の決定は先延ばしとなっており、全ての作業が終了するのは2065年ごろと試算されています。

5、プリピャチの町

プリピャチの町の歴史は浅く、ソビエト連邦時代の1970年2月4日、チェルノブイリ原子力発電所の建設と合わせて創建された計画都市でした。当時の町の人口は49,360人、住人の平均年齢は26歳、町の住人は原子力発電所に関わる人々や、その家族が住んでいました。原子力発電所の事故により、1986年4月27日午後には全ての住人達は強制避難したため、現在はゴーストタウンとなっています。当時は全住戸面積658,700㎡、総住宅数160軒、13,414世帯が住んでおり、その中には学校が5校、幼稚園が15園、「エネルゲティック」と呼ばれる文化施設、「プロメティウス」と呼ばれる映画館を始め、多くのスポーツ施設及び文化に関する建物がありました。現在はキエフ市とウクライナ緊急事態対応省により管理されています。



6、秘密の施設「ドゥーガ1」

ウクライナ・ソビエト社会主義共和国時代、ミサイル防衛・早期警戒、ミサイルの発射に関する監視を行うため「ドゥーガ」と呼ばれるミサイル感知巨大アンテナ施設が3カ所に建設されました。

1つ目のドゥーガはウクライナの南に位置するミョラーイウという町の近く、2つ目のドゥーガ1と呼ばれる施設は、チェルノブイリ原子力発電所から数キロ離れたチェルノブイリの町、3つ目のドゥーガ2はロシアの極東、コムソモリスク・オン・アムールという都市に建設されました。現在、唯一残っている施設はドゥーガ1の施設のみで、今回のツアーで実際に近くで見ることができます。



キエフ到着予定 PM 20:30

重要注意事項について

- 忘れずにパスポートをお持ちください。パスポートが無い場合、チェルノブイリ立ち入り禁止区域へ入ることができません。
- チェルノブイリ立ち入り禁止区域の規則により、ツアー参加者の服装は長袖、長ズボン、ブーツ又はスニーカーを着用して下さい。
- チェルノブイリ立ち入り禁止区域の見学中及び見学後、体調不良や健康問題、所持品の放射能汚染などの問題が起きた場合、チェルノブイリ立ち入り禁止区域管理機関・ツアー主催側は一切責任を取りません。チェルノブイリ立ち入り禁止区域に入る前に、2枚の同意書にサインする必要があります。
- 予約をされた方のみ、チェルノブイリ内の食堂にて昼食(14:30)、夕食(17:30)に食事が提供されます(事前予約必要)
- 1日のチェルノブイリツアーで受ける放射エネルギーは1時間の飛行時間に等しく、胸部のX線撮影時に受ける放射能より160回分少ない量です。

恐れ入りますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。